

瀬場砂防堰堤工事の思い出

●狩川駅前、朝6時過ぎ大型乗り合いバス、5台～6台木炭で走らせるバスでした。当時の道路は、「砂利道で砂ぼこりを上げること1時間くらい」何にも知らずに働きに出て来て、山々の素晴らしい景色に見とれ、良い仕事場へ行くと、喜びを胸にして現場に着きました。職員1人が300人以上の人夫に声を掛け1日の仕事の割り振りを言います。私に当たった仕事は床堀り作業です。機械もなく全部人力でした。道具はスコップ、ツルハシ、バリ、ジョレン、ロープ、モッコ、担ぎ棒などです。2人1組になり肩で担ぎ何枚もの歩み板を登り、土砂を片付けます。所々には大きな石があり、取り除く石に穴をあけ、火薬をつめ発破させて石を小さくし、その石で石工さん達が藁バンドリを付け1個ずつ背負って現場まで運んでいました。

(立谷沢川の記憶より
：赤谷 よし子氏)



建設に従事された方々の送迎状況



昭和28年頃の瀬場砂防堰堤の工事の様子